

陶磁器の華、東洋と西洋の美の出逢い。

セラミック・ロード展

10月24日[土]—11月29日[日]

10月26日・11月2日・9日・16日・24日は休館。

岡山市立 オリエント美術館

〈陶磁器の海路〉が結んだ

マイセン、デルフト、古伊万里、景德鎮など。

ベルギー王室秘蔵の

200余点を一挙公開。



色絵オランダ人図水注 古伊万里

色絵金彩唐子文水注
景德鎮(中国)



◎主催
ベルギー・ブリュッセル
王立美術歴史博物館
岡山市/岡山市教育委員会
山陽新聞社
NHKプロモートサービス
◎後援
外務省/文化庁
ベルギー大使館
岡山県/岡山県教育委員会
岡山県各市町村教育委員会
連絡協議会
岡山県PTA連合会
岡山市連合婦人会
NHK岡山放送局/山陽放送
◎協賛
サベナ・ベルギー航空

◎入場料
一般800円[600円]
高校生500円[350円]
小・中学生300円[200円]
[]内は前売・団体20名以上の
料金。

陶磁器の華、東洋と西洋の美の出逢い。

セラミック・ロード展

ビャンコ・ソプラ・ビャンコ (Bianco-sopra-Bianco)とは、「白の中の白」。それはヨーロッパ人が求めた白い肌の陶磁器のことです。

16世紀から17世紀初頭にかけて、ヨーロッパの陶器の主流は、イタリアのマヨリカ焼でした。1602年、東洋から絹や香辛料と共に多数の雑貨を積んだ2隻の船が初めてオランダに到着し、積荷は町の人々に売られました。これがヨーロッパ陶磁史に決定的な意味をもつことになりました。人々が目にして感激した品物は、「白く輝く、つややかな肌の磁器」だったからです。

東洋磁器に触発されたオランダ・デルフトの陶工たちは、17世紀後半になって中国陶器に匹敵する白い輝きのある陶器を創ることに

成功し、絵付師たちは絵文様に柿右衛門のモチーフを做って美しい色彩を再現。「デルフト伊万里」と名付けました。

1710年、ポーランド王アウグスト2世はマイセンに陶磁器工場を作らせましたが、その窯の最初の作品群は、自らが所蔵していた中国風や古伊万里の柿右衛門風の文様で飾られたものでした。フランスでは、1725年、ブルボン家のコンテ公により、シャンティー窯が柿右衛門文様に影響された意匠の磁器を焼き始めます。このように、東洋磁器を賛美する風潮は、拡大に拡大を重ねていきました。この頃の貿易船は天候に左右され、就航が困難で年に1度。そこで、初め町の人々が熱狂した景德鎮や伊万里焼は、もはや彼らの

手の届かぬ高価なものとなり、王宮や貴族の特別な広間「陶磁器収蔵庫」に秘蔵されるようになってしまいました。

王侯、貴族のコレクションは、オランダ・ウィレム3世の妻メアリーのコレクション。アウグスト2世の日本宮。そしてベルギー国王レオポルド2世の中国宮などが有名です。

夢みた東洋磁器への憧れから、景德鎮や伊万里へヨーロッパ意匠による磁器を注文する一方、ヨーロッパの王侯は、自分の窯で焼く陶磁器の意匠や文様を宮廷画家にゆだねました。彼らは、中国や日本の模倣から、やがてヨーロッパ独自の絵文様を創りあげることになります。上流階級の「東洋趣味」(シノワズリー)のブームとなったのです。

本展は、ベルギー王室の特別なご好意により、レオポルド2世の豪華絢爛たるコレクション「陶磁器収蔵庫」の堅い扉を日本のために開けて、今日ここに初めて公開されることになったものです。東洋陶磁器と西洋陶磁器の美の出逢いをご鑑賞ください。



- ① 色絵楼閣山水図チューリビエ
デルフト(オランダ)
- ② 色絵金彩唐風俗図水注
マイセン(ドイツ)
- ③ 色絵花卉文手付瓶
デルフト(オランダ)
- ④ 人物文平鉢
デルター(イタリア)
- ⑤ ルーバン市紋章皿
景德鎮(中国)

◎お問い合わせは
岡山市立 オリент美術館
TEL.0862-32-3636
山陽新聞社事業部
TEL.0862-31-2211

優待割引券

陶磁器の華、東洋と西洋の美の出逢い。

セラミック・ロード展

10月24日[土]—11月29日[日]

岡山市立 オリент美術館 [10月26日・11月2日・9日・16日・24日は休館]

本券を入場券売場へお出しください。

入場料を各100円割引いたします。1枚につき、5名様有効。

優待割引券

陶磁器の華、東洋と西洋の美の出逢い。

セラミック・ロード展

10月24日[土]—11月29日[日]

岡山市立 オリент美術館 [10月26日・11月2日・9日・16日・24日は休館]

本券を入場券売場へお出しください。

入場料を各100円割引いたします。1枚につき、5名様有効。